

平成 26 年度 第 1 回コンクリート常任委員会
議事録（案）

日時：2014 年 5 月 13 日（火）14 時～17 時

場所：土木学会 講堂

出席者：二羽委員長、岩波幹事長、綾野、宇治、内田、梅原、河合、岸、佐伯、佐藤、大内（島委員代理）、鈴木、添田、武若、田中、谷村、築嶋（津吉委員代理）、中村、名倉、信田、松村、丸山、山本（宮川委員代理）、睦好、森、森川、横田の各常任委員、小林、下村、濱田、久田、丸屋の各常任委員兼幹事、田村オブザーバー、二瓶

配付資料：

- 1-0 平成 26 年度 第 1 回コンクリート常任委員会 議事次第
- 1-1 平成 25 年度 第 6 回コンクリート常任委員会 議事録（案）
- 1-2 汚染水貯蔵用 PC タンク検討小委員会 委員構成（案）
- 1-3 コンクリート構造物の品質確保小委員会（案）
- 1-4 コンクリート構造物の安全確保のためのシステムに関する研究小委員会（225）委員構成
- 1-5 全国大会研究討論会「変わる／変わらないコンクリート，変える／変えないコンクリート工学」（案）
- 1-6 「社会インフラメンテナンス工学」テキストブック構成（案）に対するご意見・ご協力について（依頼）
- 1-7 平成 25 年度コンクリート委員会 一般会計 決算
- 1-8 日本が世界に誇るコンクリート技術“Concrete Technology of Japan”目次
- 1-9 繊維補強コンクリートの構造利用研究（346）小委員会 委員構成
- 1-10-1 がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会「成果報告会」
- 1-10-2 トンネル構造物のコンクリートに対する耐火工設計施工指針（案）発刊にともなう講習会
- 1-10-3 セメント系構築物と周辺地盤の化学的相互作用に関するシンポジウム 参加の募集
- 1-10-4 鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会（340 委員会）第 2 期 および 社会基盤施設の設計と維持管理の連携システムの構築に関する研究小委員会（344 委員会）合同成果報告会

議事：

1. 委員長挨拶

二羽委員長より挨拶があった。

- ・ 道路インフラに対して 1 回／5 年の近接目視を実施することが国交省より義務づけられたが、コンクリート委員会としてはこのシステムが上手く回るように助力したい。
- ・ 土木学会 100 周年記念事業にご協力を。
- ・ 2012, 2013 年度に示方書を無事刊行したが、次期改訂に向けて動き出す。
- ・ 今年は毎回の常任委員会で、日本各地の状況について話題提供をいただくことにした。

2. 平成 25 年度第 6 回コンクリート常任委員会議事録（案）の確認【資料 1-1】

下村幹事から内容の確認がなされ、以下の修正，補足がなされた上で，承認された。

- ・ 2. の一つ目の項目 「用語に」→「用語の定義に」
- ・ 6 (3) 大河津可動堰記録保存検討委員会の報告書は，その後，コンクリートライブラリーシリーズからは独立して，土木学会 100 周年記念出版の一環として出版することに，変更された。ただし，出版編集に関わる会議費用はコンクリート委員会から拠出する。

審議事項：

1. 示方書改訂小委員会の改組

二羽委員長から，小委員会委員長を宮川委員として，まずは各編の主査クラスで運営部会としての活動を開

始することが説明され、承認された。人選は宮川新委員長に一任する。

2. 規準関連小委員会の改組

二羽委員長から、小委員会委員長が鎌田委員から久田幹事に交代することが説明され、承認された。人選は久田新委員長に一任する。

3. 2種委員会の設置

(1) 「汚染水貯蔵用 PC タンク検討委員会」【資料 1-2】

二羽委員長から委員会設置の趣旨について説明があった。東日本大震災特別委員会内で、汚染水対策タスクグループが活動しているが、そこからは独立したかたちで、コンクリート委員会内で勉強する目的で、委員会の設置を検討することとなった。従来は鋼製タンクで貯蔵しているが、PC タンクの可能性を探りたい。

- ・ 施工環境が厳しいため、PCa が有効であると考えられるが、PCa は対象としているのか？
 - 対象としている。
- ・ PC タンクは LNG の防液壁としての実績があるが、その方面の技術者を委員に加える必要はないか？
 - とりあえずは資料掲載のメンバーで活動を開始し、必要に応じて追加することにする。

以上の審議を経て、小委員会（228）の設置が承認され、小委員会の委員長には梅原委員が就任することが決定した。

4. 3種委員会の設置

(1) 「コンクリート構造物の品質確保小委員会（仮）」【資料 1-3】

委員長候補者の田村隆弘オブザーバー（徳山工業高等専門学校）から委員会設置の趣旨について説明があり、質疑がなされた。

- ・ 「山口県」が検討対象とされているが、普遍性を持った内容にする必要がある。
 - 山口県での仕組みを全国展開することを目指している。
- ・ 日本コンクリート工学会（JCI）で類似の委員会があったが、その関連は？
 - JCI はデータベースが中心であったが、こちらでは現場で品質確保をするための仕組みを取扱いたい。
- ・ 養生も含む施工技術も対象とするのか？
 - 対象とする。ただし、方法自体は施工編で網羅されているので、新しいものを提案するよりも、それらを確実に実施することを目指したい。
- ・ 示方書改訂を意識した活動をして欲しい。
- ・ ここ 10 年ぐらい、同種の委員会が多数設置されてきているので、それらの成果も参考にしてほしい。
- ・ コンクリート教育研究小委員会ともタイアップした活動を行って欲しい。

以上の審議を経て、小委員会（350）の設置が承認された。委員は公募する。また「第三種委員会に関する申し合わせ」を確認していただくこととした。

5. 1種2種委員会の委員追加・交替

二羽委員長から「コンクリート構造物の安全確保のためのシステムに関する研究小委員会（225）」の幹事・委員の交代と追加の説明があり、承認された。【資料 1-4】

6. 全国大会研究討論会のテーマについて【資料 1-5】

大内雅博委員代理（高知工科大学）から、企画について説明があり、以下のような意見があった。

- ・ 「変わる／変わらない」という表現が、やや誤解を招くようにも思う。
 - ・ コンクリート技術者で閉じている印象があるので、一般市民も巻き込むような仕掛けが欲しい。
- 以上を踏まえて、幹事団で内容を再度検討し、次回の常任委員会で報告する。

7. 「社会インフラメンテナンス工学」テキストブックへの意見照会【資料 1-6】

岩波幹事長から、現在編集中のテキストブックの概要について説明があつて、以下のような質疑応答があつた。

- ・ 付帯設備を含めた全体の安全性を確保する維持管理の重要性は謳われているのか？
 - 示されている。ただし、従来の学問体系に沿った「鋼」「コンクリート」「土」などという分け方で執筆が進んでいるので、指摘の件についての重要性が十分伝わるように執筆したい。
 - ・ 「更新」の考え方については、従来、あまり強調されてこなかった部分であるので、充実させて欲しい。
 - ・ メンテナンスイノベーション、とは何か？ 新技術を紹介するのであれば、内容がすぐに陳腐化してしまうのではないかと？ 個別の技術の紹介となってしまうとよくない。
- 他にも意見があれば、岩波幹事長に連絡のこと。

報告事項：

1. 平成 25 年度の決算報告【資料 1-7】

岩波幹事長から説明がなされた。剰余金は、その分、示方書仕掛金を返却することで処理した。

2. 100 周年記念出版誌の編集進捗状況【資料 1-8】

土木学会 100 周年記念出版編集小委員会の丸屋委員長から、進捗状況について説明がなされた。原稿は出そろつたので、用語の統一を図るなどした後、次回常任委員会にて中身の審議を予定している。

3. 3 種委員会の委員構成

岩波幹事長から「繊維補強コンクリートの構造利用研究小委員会（346）」の委員交代が報告された。【資料 1-9】

4. 報告会・講習会の実施報告

梅原委員から「コンクリートのあと施工アンカー工法の設計・施工指針（案）発刊に伴う講習会」について、一般参加者が 153 名であったこと、指針中の設計例にミスがあつたため正誤表を作成し、コンクリート委員会のサイトからダウンロードできるようになっていることが報告された。

また、常任委員会に寄贈された指針には正誤表が添付されていなかったため、コンクリート委員会のサイトから各自ダウンロードして対応するように依頼がなされた。

5. 報告会・講習会の開催予定

下村幹事から、以下の 4 つの報告会・講習会についてアナウンスがあつた。

- (1) がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会「成果報告会」、5 月 23 日（金）土木学会講堂にて【資料 1-10-1】
- (2) 「トンネル構造物のコンクリートに対する耐火工設計施工指針（案）」発刊に伴う講習会、6 月 3 日（火）土木学会講堂にて【資料 1-10-2】
- (3) 345 委員会「セメント系構築物と周辺地盤の化学的相互作用に関するシンポジウム」、7 月 3 日（木）土木学会講堂にて【資料 1-10-3】
- (4) 340 委員会「鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会」および 344 委員会「社会基盤施設の設計と維持管理の連携システムの構築に関する研究小委員会」 合同成果報告会、7 月 16 日（水）土木学会講堂にて【資料 1-10-4】

6. その他

- ・ 国際関連小委員会の中村委員長から、今年度もベトナムでセミナーを予定していることが報告された。土木学会の公募では採択されなかったが、ベトナムから混和材と混和剤に関するセミナーの要望があつたため、関連する国内の業界団体に打診し、資金援助をしていただけそうである。
- ・ 佐藤委員から、6 月 17 日に北見で、6 月 24 日に函館で、示方書維持管理編の講習会が開催されることが

アナウンスされた。

次回開催日：

平成 26 年度第 2 回コンクリート常任委員会
日時：2014 年 7 月 8 日（火）14 時～17 時
場所：高松商工会議所
議題は 6 月 30 日（月）までに幹事へ

話題提供：

- (1) 「九州地方におけるコンクリート構造物の品質確保に対する取り組みについて」（武若委員）
- (2) 「北海道における調査研究活動」（横田委員），「札幌建設業協会で作成した橋梁の新しい点検・診断法」（佐藤委員）